TEAM HIMURO

氷室小学校　学校だより　No.12

ブログ

令和５年9月12日
枚方市立氷室小学校
校長　矢島　義嗣

「個別最適な学びと協働的な学びを通した知・徳・体の育成」
子どもが選んで、子どもが決めて、子どもが学ぶ教室をめざして

1学期から取り組み始めていることをまとめてみました。少し長いですが、読んでいただけると幸いです。

①学校教育目標の設定

今年度、学校教育目標を「個別最適な学びと協働的な学びを通した知・徳・体の育成」に変更しました。「笑顔がいっぱい」や「勇気や元気のある」などの抽象的な目標ではなく、具体的に「個別最適・協働的」と示すことで、全教職員が同じベクトルで授業を進めることができるようにしています。

※個別最適な学び：子どもたちが自分の能力や進み具合によって選択しながら学ぶこと

※協働的な学び：ペアで話し合ったり、グループで協力して学習すること

②ICT 活用推進

「個別最適な学び」や「協働的な学び」のある授業を効果的に推進するためには、タブレット端末の活用は必要不可欠です。そもそも、タブレット端末を使うかノートやワークシートのような紙媒体を使うかを子どもたちが選ぶ必要があるし、協働的な学びをする上でも、タブレット端末を活用して効率的にグループ活動ができるようにならないと、とても授業時間の中ではおさまりきらないからです。

子どもたちが日々の学校生活の中でタブレット端末を自由に使うことで、ICT の活用能力も向上しています。1年生から自分の好きなキャラクターをインターネットで検索して写す活動や、育てたアサガオの写真を撮って観察記録にまとめる活動などができていて、驚かされます。

学校の正面玄関に「ようこそ氷室小」の看板を作りたいと、校長室に遊びに来ていた6年生に声をかけた時も、Canva という iPad に入っているアプリを活用して、数日で上手な看板を作って持ってきてくれました。

アサガオを iPad で撮影する１年生

iPad で玄関の看板を作ってくれた６年生

③子どもが自己選択できる場所の創設

校長として、子どもたちの自己調整力（自分で選択できる力）を伸ばすためにできることは何かと考えた時に、思い浮かんだ一つの方策が「学習環境を作ること」でした。

図書の時間の様子を見ていると、全員が机に向かって姿勢よく座り、静かに読書をしていましたが、読書が苦手な子にとっては、あまり楽しくない時間なのではないだろうかと感じてしまいました。そこで、学校図書館の約3分の1にカーペットを敷き、座ったり寝転んだりして読書ができるようにしました。最初は先生の間でも賛否がありましたが、「先ずは本を楽しむことから始めよう」「姿勢よく読書をさせるのではなく、読書に向かう気持ちを育てたい」などと理解を求め、一緒に取り組んでもらいました。

その他、空き教室を活用してプログラミング教材や iPad の動画編集などができる探究ルームを作り、また、休み時間に友達との会話や、自由に読書などができるフリースペースを廊下のいろいろな場所に作りました。このフリースペースは授業中に教室を飛び出して行うグループ活動や、休んでいた子どもが簡単な補講などをするスペースとしても活躍しています。

このフリースペースに置く雑誌を決める際も、いくつかの候補の中から子どもたちの投票で決めて置くことになりました。投票は Google フォームで作成し、iPad で QR コードを読み取って投票できるようにしたのですが、多くの子どもたちが投票に参加してくれました。

このように、子どもたちが活動の形や場所をよりたくさん選べるようになることで、自己調整力が高まればと考えています。

ちなみに、校長室も休み時間には開放しています。校長先生も子どもたちとお話しすることでクラスの様子を知ったり、流行っていることを教えてもらったりしています。また、異なる学年の子が来るので、学年交流の場にもなっています。

探究ルーム　レゴなどのプログラミング教材やグリーンバックなど

休み時間の校長室の様子

④外部人材の活用

本校の子どもたちが「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実現するためには、先生だけでなく、たくさんの人から学ぶことが必要であると考えています。小学校では主に教科書を使って、それぞれの教科で様々な分野の学習をしています。最近はタブレット端末なども活用し、インターネットで検索して調べることもできるが、やはり、実際に専門家に聞いたり、体験させてもらうことでしか学べないこ

とも多いのではないでしょうか。

そこで、地域人材や企業、NPO 法人など、外部人材をできるだけ活用して、子どもたちの経験や体験の機会を増やすようにしています。

今年度の１学期(約3か月)だけでも、以下のように全学年で外部人材の活用を行いました。

【1 学期に実施した外部人材の活用事例】

・交通安全教室(1 年)[警察 OB]
・氷室保育園との交流(1 年)[氷室保育園]
・自転車教室(3 年)[ドライビングスクール]
・歌唱指導(4 年)[市教育委員会指導主事]
・田植え体験(5 年)[NPO 法人]
・租税教室(6 年)[大阪国税局]
・着衣泳講習(6 年)[防災ボランティア]
・ストーリーテリング(全学年)[お話を語る会]
・誘拐教室(1 年)[枚方警察]
・リコーダー講習(3 年)[楽器店]
・バレーボール交流授業(3 年)[プロバレーボール選手]
・もみおろし体験(5 年)[NPO 法人]
・LGBT 教室(5・6 年)[講師招聘]
・PUSH いのちの授業(6 年)[枚方寝屋川消防組合]
・お話しキューピット(全学年)[地域の方]
・菊づくり体験(委員会)[菊づくり支援員]

菊づくりのプロによる菊づくり体験

ベルマークをポストに入れる子どもたち

⑤働き方改革・業務改善

学校の教員は、日々業務に取り組んでいます。授業の準備だけでなく、ノートのチェックや丸付け、お家の方への連絡、学級通信の作成など、挙げだしたらきりがなく、中には、月 80 時間近く時間外労働をしている先生もいます。そのような状態では、いくら「個別最適な学び」や「協働的な学び」のある授業が必要だと伝えても、その研究をする時間すらないのが実情です。

そこで、授業改善を推進することと、業務改善を推進することは両輪で取り組むことが必要であると考えました。

枚方市教育委員会で募集があった業務改善推進校に応募し、週3回の業務改善支援員さんにも来ていただくことができました。業務改善支援員さんに丸付けなどの担任の作業や印刷などの事務的な作業を依頼して時間の捻出に成功するだけでなく、教員自身の意識改革にもつながっています。

1学期には、「職員作業による備品棚の整理」「すべての手紙のオンライン配信化」「職員会議資料をタブレット端末で行うペーパレス会議の導入」なども実施しました。

また、PTA の仕事についても、会議の人数の精選やペーパレス化、オンライン化、業務の見直しなど業務改善を提案しながら進めています。今まで PTA の方だけで行っていたベルマーク収集も児童会と連携し、子どもたちがベルマークでもらいたいものを決め、児童朝会で声掛けを行うなど、子ども主体の取組に変えることで、保護者の負担が減るだけでなく、「子どもたちの気持ちを応援したい」と、より積極的に取り組んでいただけるようになったと感じています。種類ごとにベルマークを提出できるポストも校務員さんが作成し、子どもたちに好評なだけでなく、仕分けの負担軽減にもつながりました。

【さいごに】

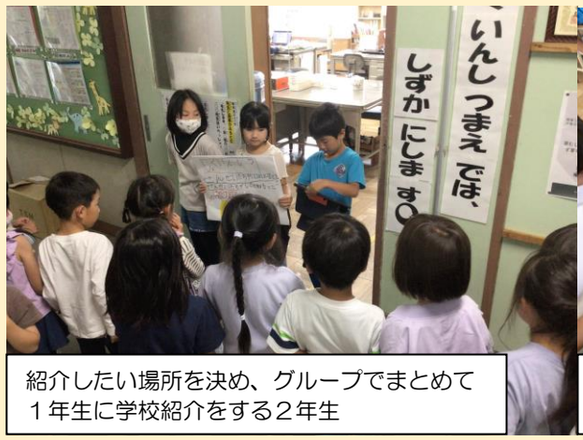
このような取組を通して、私たち先生の意識も変わり、授業が変わり始めています。

1時間の授業中でも、先生が意識して「どの問題から解くか自分で選ぶ」「どの道具を使うか自分で選ぶ」「どの段落について考えるか自分で選ぶ」「紙にまとめるかタブレット端末にまとめるか自分で選ぶ」「子どもたちで撮影係、記録係、発表係など役割分担する」などのように、子どもたちが自分で選択できる場面を意図的に作っています。

また、宿題についても漢字の書き取り練習といった画一的な宿題だけでなく、AI ドリルなどを活用した子どもの進捗にあった課題や、自主学習などの主体性を引き出す宿題を徐々に増やしていこうと考えています。(もちろん、書き取りや計算ドリルの演習などの宿題も引き続きあります。)

先日、2学期の校外学習のために担任の先生が下見に出かけていましたが、その時も「昨年もここだったので・・」といった決め方ではなく、「子どもたちに〇〇の学びを達成させるためには、どこに行って何をさせようか？」「観光バスで行くのではなく公共交通機関を利用する機会を作れないか？」「子どもが見学する場所を選んでグループごとに分かれて活動させられないか？」など、先生が積極的に「個別最適な学び」や「協働的な学び」のある活動を考えてくれていました。

これからも、氷室小学校の子どもたちが未来社会を生き抜くうえで必要となるであろう力を少しでもつけさせるべく、教職員が一丸となって取組を進めていきたいと考えています。



紹介したい場所を決め、グループでまとめて
１年生に学校紹介をする２年生

班で話し合いながらロイロノート（iPad）や
模造紙に整理したり、まとめていく５年生

【枚方市立氷室小学校のブログ】
日々の学校の様子を発信するだけでなく、配付文書なども掲載しています。